Vol.41

梶原しげるの
KAJIWARA SHIGERU
ビジネスに効く！会話のヒント

「大丈夫です」の功罪

ポイントカードを巡る「儀式」

コンビニで、コーヒーショップで、ドラッグストアで。支払いするレジの前で店員さんがたいてい尋ねるのが「ポイントカードお持ちですか」です。先日、人里離れた仏具店でお線香を購入した時にも「ポイントカードお持ちですか?」と聞かれ、「ここでも……」とある種の感慨にふけったものです。

厳粛な仏具店はともかく、支払いに行列のできるお店などでは一連の「儀式」がスピーディーかつテンポ良く行われています。店員さんの「ポイントカードお持ちですか」に、多くの客は財布から素早くカードを抜き取り提示します。

運悪く、その店、ないしはその店の系列店カードを所持しない客は「大丈夫です」と答えます。すると店員さんは「失礼しました」と謝罪の言葉を添えてちょっと恐縮してみせるのです。一連の流れは、儀式のように整然と執り行われ、目で見る限り違和感もありません。

ところが、このやりとりを文字にして読んでみると「なんだかなあ」と不思議な感じがします。

(1) 店員「ポイントカードはお持ちでしょうか?」
(2) 客「大丈夫です」
(3) 店員「失礼しました」

最初の質問は実に真っ当ですが、それに対するアンサーとしての「大丈夫です」が意味するものはなんでしょうか?

2018年に10年ぶりの改定となった『広辞苑 第七版』によると、大丈夫は①立派な男子、②しっかりしているさま。ごく堅固なさま。あぶなげのないさま、③間違いなく、たしかに:例文「〜勘定は払うよ」(一部省略)と説明しています。

日本一有名な、しかも最新版の辞書である広辞苑の3つの語釈に、客の答え(2)「大丈夫です」に当てはまりそうなものは見当たりません。①は違う、②「しっかりしてます」も変だし、③カードを持っていないのに「たしかに」では意味が通らない……。

(2)の「真意」がつかめないというのに、(3)で店員さんは「失礼しました」とわびている……。このやりとりは、一体なんなのだろうか? 謎は深まるばかりです。

本来の意味が「フワフワ化」

普通の社会人なら一日に一度や二度は必ず目にし、耳にする、ごくごく日常的なやりとりも、こんなふうにあらためてチェックを入れると「意味不明感」が募ってきませんか?

私たちは口に出して発する言葉に「確固たる意味がある」と信じがちですが、そうでもない「フワフワした、つかみどころのない言葉」を投げ掛け合い、「なんとなく分かった気」になっていることがあるものです。

フワフワした言葉の代表選手こそが、まさに「大丈夫」という単語です。「大丈夫」を「儀式化されたレジ前の会話」ならまだしも、社内の人間関係を左右するような場面で使用するのには細心の注意が必要です。

そのことは、言葉の新しい使われ方を積極的に掲載することで知られる『三省堂国語辞典』の最新版(第七版)を見ても分かります。

①②と伝統的な語釈を記した次の③に「俗」としながら、ファミレスで働く若い人が使う「お皿をお下げしても大丈夫ですか」を例に「よろしい・けっこう」という許諾表現を。さらには「レジ袋は大丈夫ですか=ご不要ですか」「はい、大丈夫です(いりません)」という「要・不要」で使われる「大丈夫」にも踏み込んでいます。

「確かに言うよなあ」「ちょっと違和感あるけどなあ」などさまざまな声が聞こえてきそうですが、辞書もこの手の表現を見逃さないのです。

ベストセラーシリーズ『問題な日本語』(大修館書店)の著者としてもおなじみ、北原保雄先生が編纂(へんさん)した『明鏡国語辞典 第二版』でも、「伝統的な意味」に加え、相手の勧誘などを遠回しに拒否する俗語の例文「砂糖は二個?」「いえ、大丈夫です」を挙げています。

「大丈夫」の「多様化」「意味の拡大」「フワフワ化」にストップがかからない様子は『デジタル大辞泉』を見ると、さらに進んでいる様子がご覧になれます。

大辞泉とは、小学館が発行する25万語を4000ページに収録した大型辞典です。このおなじみの紙版に加え、スマホやiPadなど端末で読めるアプリ版辞書、その名も『デジタル大辞泉』に「大丈夫」の今がリアルに見えてきます。

紙版の改定には多くの場合10年ほどの歳月を必要としますが、このデジタル版はなんと1年間に3回もの更新(いわば、改定が年3回!)が可能となったことで「最新の言葉を引ける未来の辞書」を実現してしまいました。

どちらの文脈で言っているのか?

言葉は思った以上に意味や使われ方が変化するものです。中には数年で、従来とは「逆の意味」で使用されるものさえあります。「大丈夫」がまさにそれです。

デジタル大辞泉の中身をちょっとだけのぞいてみましょう。大丈夫の意味として「あぶなげがなく安心できるさま。強くてしっかりしているさま。『地震にも〜なようにできている』」(省略)などなど、伝統的な語釈、例文が書かれた後に「補説」が記されています。これが、この辞書の肝なのです。

補説:近年、形容動詞の「大丈夫」を、必要または不要、可または不可、諾または否の意で相手に問いかける、あるいは答える用法が増えている。「重そうですね、持ちましょうか」「いえ、大丈夫です(不要の意)」、「試着したいのですが大丈夫ですか」「はい、大丈夫です(可能、または承諾の意)」など(デジタル大辞泉より一部抜粋)

同じ「大丈夫」が「要・不要」「可・不可」「諾・否」という逆の意味で使われるということは、話す相手が「どちらの意図で話しているのか」を言語・非言語の全てを聞き逃さず、見逃さず、文脈や流れる空気まで感じ取って判断することが求められるようなのです。

例えば……本連載でおなじみ、職場の上司と部下の会話で見てみましょう。

ケース1「許諾なのか、遠回しに上司の誘いを拒否しているのか」

職場で、残業を、いつもより早めに終えた上司と部下。このところ頑張ってくれた部下をちょっと労(ねぎら)おうと思った上司が、会社から駅への途中で、部下に声を掛けました。

上司A「帰りに飯でも食って帰るか?」
部下B「大丈夫です」

数年前までなら、上司の誘いを断る部下なんてめったにいませんでしたから「大丈夫」と言えば「もちろん! ぜひご一緒させてください」を意味していました。

ところが、いまや「大丈夫」=「遠回しな断り」が定着していますから、「結構です」「嫌です」「食事は家に帰って愛する妻と2人で楽しみます」を意図して発せられたものと受け止めるべきかもしれません。

部下の「本心」を読み取れないまま「じゃ、俺の行きつけのところで一杯やりながら」などと無理やりなじみの居酒屋なんかへ連れ出すと、「パワハラ上司」との悪い評判を立てられる恐れもあります。

「大丈夫」のその向こう側に見え隠れする「本音」を嗅ぎ取る能力が、いま求められています。

ケース2「『大丈夫』の前提が『要』なのか、『不要』なのかを確認しないで大惨事!?」

上司C「例の許可申請、大丈夫か?」
部下D「大丈夫です」
上司C「おお、大丈夫か。じゃあ任せたぞ」
部下D「はい、大丈夫です」

「許可申請」についての認識が「一緒」なら問題など発生しませんが、上司は「申請が必要だ」という前提で「大丈夫か?」と尋ね、部下は「申請は不要」を前提にして「大丈夫です」と答えていたとしたら、後々とんでもないことになりそうです。

「そんなとんちんかんな事態が起きるはずがない」とお思いの方がいらっしゃるかもしれませんが、「大丈夫」というフワフワ語は「どちらの意味でも使われる」との辞書の記述を、ぜひ、思い出していただきたいものです。

PROFILE
梶原 しげる(かじわら しげる)
早稲田大学卒業後、文化放送に入社。20年のアナウンサー経験を経て、1992年からフリーとしてテレビ・ラジオ番組の司会を中心に活躍。49歳で東京成徳大学大学院心理学研究科に進学、心理学修士号取得。東京成徳大学経営学部講師(口頭表現トレーニング)、日本語検定審議委員も務める。